

筈川と庚申塔



明治 40 年

麻布広尾の古川。川の流れるまち、昔の麻布は川岸の湿潤地帯であった。

出典：東京写真帖

平成 21 年

麻布には、古川の他に筈川（現在は暗渠）が流れている。天現寺橋付近で古川（渋谷川）に合流する筈川は、青山 3 丁目の梅窓院付近が水源の一つ、根津美術館にも水源を持っている。

左が筈川、右は昔からの道？
（西麻布 2 丁目付近）



平成 21 年

近くに川が流れ、昔は草原であった場所には、人々の道標ともなっていた庚申塔がたっている。

（西麻布 2 丁目、南青山 4 丁目）



江戸時代の観光名所 筭橋 江戸図絵から現代



昭和 34 年：筭橋跡

写真提供：港区立港郷土資料館



昭和 46 年：筭橋跡

写真提供：港区立港郷土資料館



平成 23 年：外苑西通り
から、牛坂方向。



出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館所蔵

「筭橋」



平成 23 年：筭橋跡



平成 23 年：交差点の場所が
筭橋跡、その先が外苑西通りと
の交差点。



平成 23 年：若葉会幼稚園横
から筭橋跡、外苑西通り交差点
方向。



平成 23 年：麻布霞町教会横
から、筭橋跡方向。

筭橋跡（こうがい橋）

麻布一本松同様に、源経基にかかわる伝説を持っており、小さな橋ながら「江戸名所図会」にさし絵が残っている。西麻布付近から古川へ流れる筭川にかかっていた。現在、筭川は暗渠になっているが、水流は、今でもマンホールの下を流れている。筭橋を渡り牛坂へと上って行く途中に、教会や私立幼稚園がある。近くには、この筭橋の名前のついた、筭小学校がある。

筭（こうがい）とは、髪をかき上げるのに使った、箸（はし）に似た細長い道具、女性の髷（まげ）に横に挿して飾りとする道具もある。

文人の足跡をたずねて(内藤鳴雪)



平成 24年(2012年)：内藤鳴雪居住跡[西麻布 4-17-18]

伊予松山藩の藩士として、また教育行政官として働いた後、子規派俳句の重鎮となった内藤鳴雪(1847-1926)は、71歳の時から没年の80歳まで麻布笄町に住んでいた。『ホトトギス』をはじめ、多くの雑誌、新聞の俳句選者となり、明治の俳句革新運動に大きな功績を残した。

当時、人口に膾炙[かいしゃ]した句としては、「夕月や納屋も厩も梅のかげ」が知られている。また、笄町在住当時の句としては、「迎へねど年は來にけり七十九」があり、居住の跡には港区教育委員会の案内板が立っている。

昭和 54年(1979年)： 内藤鳴雪旧邸跡遠景

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏



平成 24年(2012年)：内藤鳴雪居住跡

昭和 54年(1979年)： 内藤鳴雪旧邸跡遠景

写真撮影：田口政典氏
写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂（紺屋坂：ごみ坂）



昭和 50年(1975年)：紺屋坂 坂下の景



平成 25年(2013年)



昭和 50年(1975年)
：紺屋坂 坂下から



平成 25年(2013年)

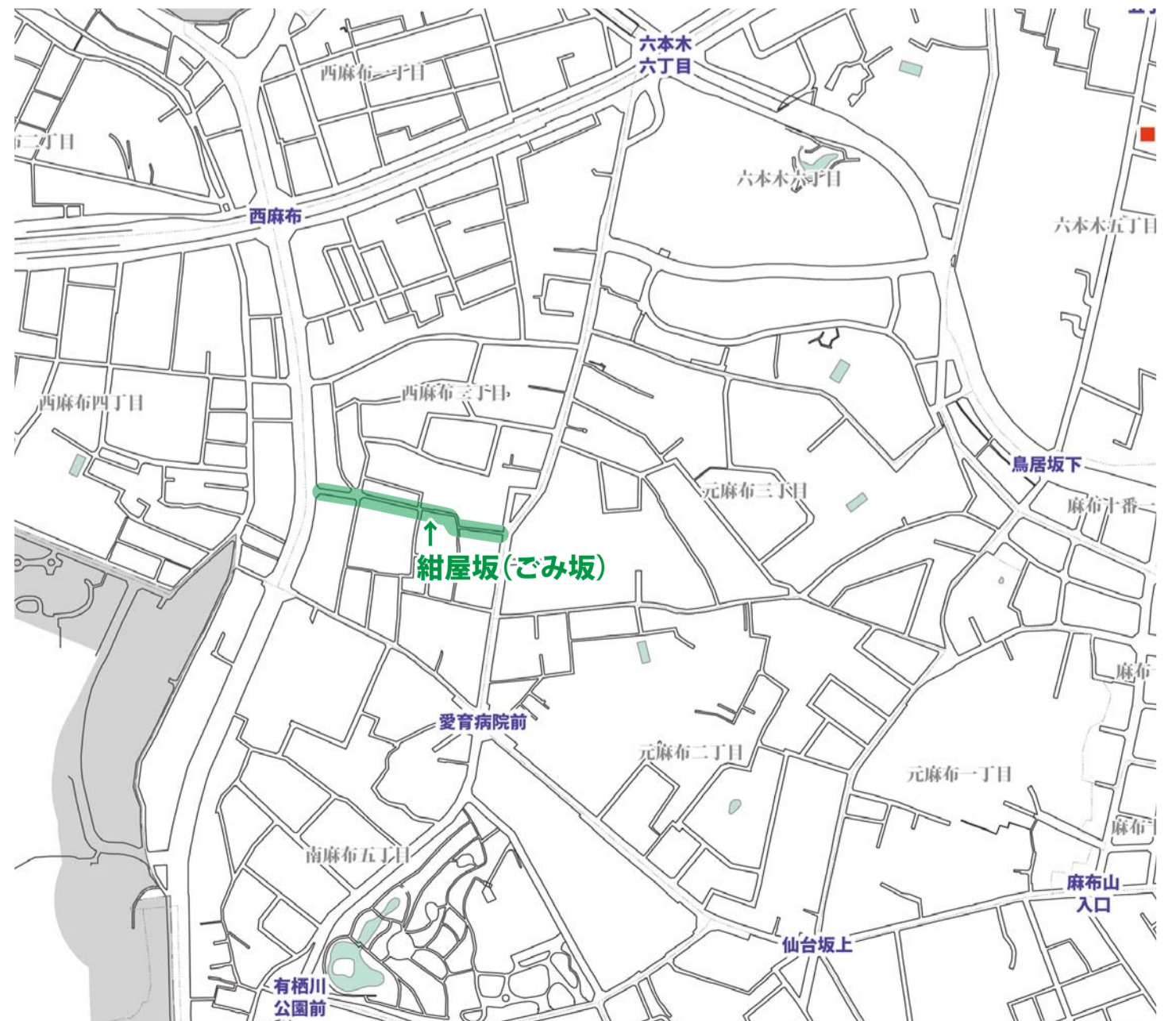
この坂付近に紺屋(染物屋)があったのでこう呼んだ。また江戸時代、坂のがけ下がごみ捨て場だったことからごみ坂ともいった。下ってゆくと筈(こうがい)小学校の正門に出る。正門の前は五叉路になっていて、角に2000年ころまで「こうがい堂」という文具店があった。文房具ばかりでなく、「たけひご」や「きびがら」のような工作に使う品物もあり、筈小学校の生徒は、皆このお世話になったものだ。



昭和 50年(1975年)
：紺屋坂 坂上を



平成 25年(2013年)



参考資料：港区産業観光ネットワークMINATOあらかると(<http://www.minato-ala.net/>)など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布の山坂(堀田坂)



昭和 49年(1974年)：堀田坂 坂上から



平成 26年(2014年) 堀田坂 坂上から



昭和49年(1974年)：堀田坂 坂下から



昭和59年(1984年)：堀田坂 坂下から



平成26年(2014年)：堀田坂 坂下から



平成26年(2014年)：
堀田坂 標柱



堀田坂(ほったざか)

江戸時代には、大名堀田家の下屋敷に向かって登る坂になっていた。

昔から、渋谷駅～日赤医療センター間を結ぶバスが通っていた。元麻布の麻布学園の生徒が渋谷方面に帰る時は、堀田坂を徒歩で登り、日赤医療センター前からこのバスを使う。近くの東京女学館の生徒と乗り合わせることをほのかに期待しつつ坂を登る。

このパネルに掲載されている古い写真について／写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏